

MU・関西 ニュース

第109号 2006.04.08-
『管理職ユニオン・関西』ニュース
発行MU・関西ニュース編集委員会
URL: www.mu-kansai.or.jp
E-mail: sodan@mu-kansai.or.jp
URL: www.mu-keiji.gr.jp
E-mail: sodan@mu-keiji.gr.jp

〒530-0044 大阪市北区東天満2丁目2番5号 第二新興ビル605号 TEL(06)6881-0781FAX(06)6881-0782
〒600-8148 京滋支部 京都市下京区七条東洞院西北角 ORKビル5F TEL/FAX (075) 353 - 4334

さあ！5月はメーデーだ！初めての人も集れ！

共同スローガンは 「競争より共生の社会を！」

例年恒例の第77回の中ノ島メーデーをご案内します。管理職ユニオン・関西も他労組の多くの仲間と共に デモ行進をします。「働き過ぎの時代」「雇用不安と一方的不利益変更」がまかり通る不平等社会を大勢の仲間と共に変革を目指しましょう！

日時 5月01日 月曜日

時間 午前10時 集合《ユニオンは、9時40分出発》

場所 中之島剣先公園 大阪市役所東へ400M(地下鉄 天満橋または北浜)

解散 梅田周辺

解散後 13時ごろ阪神デパートの屋上にてビアーパーティ開催予定

主催 実行委員会(参加希望者は大浜までご連絡を！)

月に一度は参加をしよう！！

事務所の運営は組合員全員の手で

私達の活動の基本は、相談者・加入者が闘いを始めた時、その闘いをサポートすることにあります。皆さん、月に一度は組合活動に参加しませんか？有給休暇を取って事務所に来ませんか？

この社会混迷の中で労働相談は後を絶たず、交渉や闘争も増え、事務所業務は増加する一方です。労働相談、団体交渉要員、府労委闘争、裁判傍聴など、組合員の皆さんの応援をよろしくお願いします。

解決おめでとう

完全勝利！有難うございました！ S

私は、大阪府内の会社で主に伝票入力をする仕事をし、正社員として働いていました。入社して約2年毎日楽しくやりがいのある仕事ができ、いい仲間にも出会う事ができ会社に行く事が大好きでした。

そんな時、平成17年4月16日に管理部という部署へ異動を命じられました。その日を境に私は毎日のように1人の上司から嫌がらせを受け苦痛の毎日を経験するようになりました。上司からの嫌がらせとは「セクハラ」です。携帯電話番号やメールアドレスを数度に渡り聞き、自宅にまで電話。社外へ誘う。など様々な嫌がらせを5ヶ月間ずっと受けてきました。しかし、私にも限界がきてどうしようもなくなり直接その上司に断りました。すると半年間「パワハラ」が始まりました。私の場合は無視でした。私にだけへの攻撃的な態度。辛くて悔しくて涙する日もありました。

それでも上司からの嫌がらせはエスカレートしてきたのです。平成18年1月7日上司に呼び出され、すごい剣幕で異動を言い渡されました。「1月15日から異動になったから。部署は現場で検査をしてもらう。社長にも話は、いっているし了承済みだから」と言われ、頭の中が真っ白になりました。

その時、私はこの会社を辞めようと思いましたが、この上司のやり方、会社のやり方に全く納得が行かずどこかに相談しようと思い、1月12日ユニオンに相談しに行きました。不安いっぱい私をやさしい笑顔で迎えてくれ相談ののってくれたのがNさんでした。

私は組合というものが一体どういう事をするのか全然わからずユニオンへの加入を迷いました。その時、Nさんは優しく「どこかでお茶でもしながらゆっくりと考えて来てくださいね。加入はご本人が決める事なのです。」と笑顔で言ってくれました。言われたとおり、お茶しながら相談し、加入を決意し1時間後ユニオンに戻りました。するとNさんが「あー良かった。ありがとうございます。戻って来てくださって」と言ってくれました。私が相談を聞いてもらう方なのに……。その時、Nさんの言葉がすごく温かく感じ「相談ののってほしい」と強く思いました。加入すると大浜さんとNさんが詳しく色々説明した下さって、「この即行動！」に驚きました。早速、組合加入通知書と団体交渉申込書を作成し、社長宛にFAX。この日はさすがにドキドキして夜は眠れませんでした。そして文書のやり取りをし、第一回目の団体交渉の日。仲村さん、Nさん、Oさんが一緒に来てくれました。本人の上司は平然とノコノコ席に座り、自分が訴えられている事をこの場に来て初めてわかったようでした。

しかし、私が事実を言っても「記憶がない。そんな事はしていない」と話が成立しませんでした。この日は言いたい事もあまり言えず40分程度で終了。しかし、これは作戦。相手にずっと話をさせ主張を聞き、出方を見る事で次の交渉でこっちが有利になる。なるほど！！納得し、その後も何度か文書のやり取りをしました。

第2回目の団体交渉。なんと本人が欠席！理由を聞くと「本人が居ない方が、そちらが話しやすいと思ったのでわざとそうしました」と言ってきました。よくわからない理由のまま、わたしは腹立たしい気持ちをなるべく抑え、仲村さんを中心に話を進めていき私が言葉につまずくたび、みなさんが横から助けてくれすごく心強かったです。そして、何度かの文書のやり取りをしました。私はそれを見て驚きました。「全面的に認めます」という内容。勝利と心の中で思い喜びましたが、第三回目の団体交渉に、また本人は欠席。私は、不安と焦りでうまく団体交渉で相手に伝える事ができませんでした。認めているのに、相手は言い訳ばかり。全く誠意が伝わらず大きな声でどなってしまいました。それでも仲村さん、Nさん、Oさんは冷静に判断し私にアドバイスをくれました。そして第四回目の団体交渉。ついに本人からセクハラ・パワハラを認め、団体交渉の場で謝罪する事が決定し5分程の謝罪を受けました。それと同時に、その本人の解雇処分が決定しました。そこまで出来るとは思っていなかったので大変感謝しております。

そして、その後も仲村さんに交渉して頂き謝罪金まで頂け、大変感謝しております。そして1日でも早く復帰できる様、今は治療に専念しようと思っています。まだ終わった訳ではありませんが様々な事をユニオンで学びました。「やってもらう」では無く「自分でやる」という気持ちを忘れずに前向きに何でも取り組むと絶対に自分に返ってくると確信しました。自分自身1人1人が勇気を出して行動するとユニオンは絶対に味方してくれます。この感謝の気持ちを忘れずに、これからも色々な人のお手伝いが少しでも出来ればと思っています。ここまで相談者の親身になって下さるユニオン。私は大好きです。みなさん、本当にありがとうございました。

ありがとうございました。

F

「Fさん、ちょっと。」2月27日の就業時間が終わろうとしている頃、社長に呼ばれました。社長の後に続いてパーティションで仕切られているコーナーへ向かっている間、ライブラリーへの転部か、もしや、、という考えが頭を巡りました。テレビ番組の編集を主な仕事とする株Iへ事務職として、入社して14ヶ月が過ぎていました。産休を取る人の代替要員として正社員で採用され、産休者の復帰後は他への転部ありとの条件でした。実際、産休者は去年の10月に復帰し、私は経理課から総務課へと異動していました。総務課は新たに設けた課だったので仕事もなく、一度社長からは「もっと自分で仕事を探すようにしてほしい。」との面談は受けていました。また編集の仕事をしている人からはライブラリーなら知識がなくても3日あれば慣れる仕事で空きもでているからそこへの転部では、という話も聞いていました。積極的に自分から総務の仕事をするということもなく、このままなら定時で帰れるライブラリーへの転部かな、なんて甘い考えで異動後は過ごしていました。

コーナーで向かい合って座っているのに社長は最後まで目を合わせることはありませんでした。年始に給与基礎データで私がミスした事をあげ、いくつかの抽象的な表現で事務職に向いていないと言い、3月末で会社都合にしてあげるから辞めてほしいと言われました。予想していた事とはいえ相当ショックだったのか、これが私の声？というような声で納得いかないし、困るという旨を伝えていました。そして私にできる仕事がないと社長が言うので、ライブラリーへいきたいとも言いました。中途半端な笑いを浮かべた社長は「管轄の部長に聞いてみます。」と言うと、去って行きました。

その時は社長が退職を勧めているのが本気かどうかの判断がつきませんでした。クビってそんな簡単に、という気持ちがあったのだと思います。冷静であれば、本気だというのはすぐにわかるのでしょうか。帰宅後とりあえずという気持ちで、すでに組合員だったKさんに電話しました。Kさんとは高校からの友達で、不当に解雇されたというのを聞いていたので、今後の身の振り方を教えてもらおうと思いました。暗くはありながらもクビって本気かなあなんて緩い調子で言うと、一笑されました。

翌日は私の勤務場所にある会議室を使い、主任者以上が出席する会議の日でした。途中わざとなのか、社長の「Fは辞めさせます！」と言う大きな声が会議室の外にいる私にも聞こえてきました。この時にやっと本気だと実感できました。

その次の日は有給を使い、Kさんに教えてもらったいくつかの公共機関に問い合わせしてみました。聞いていたとおり労働基準監督署の対応は解雇については素っ気ないものでした。斡旋も両者の合意で成り立つとの事だったので、ベストな選択には思えませんでした。それに争う姿勢を表明するのは、嫌がらせなどがあるかもしれないと思うとできるだけ先延ばしにしたかったです。弁護士の無料相談の予約をし、その準備に今までの事を書き出してみました。ミスをし、仕事に対するテンションは低かったという負い目は感じながらも納得はできずにいました。

その週の土曜日にKさんが入っている組合をネットで検索し、電話してみました。「危機的状況なのでお話だけでもしに来られることをお勧めします。」というNさんの言葉に、えっ、私って終わっているんじゃないの？と思いました。色々な人の意見を聞いてから、どうするか決めようという思いで管理職ユニオン・関西へ向かいました。仕事人間でない私でもクビとなると、自分で思っている以上に動揺しているようでした。プリントアウトした地図も持たずに出かけようとしていました。

6日目にしてやっと管理職ユニオン・関西に辿り着きました。組合で話を聞いてもらい、アドバイスをもらおうと解雇に値しないのだと分かり、気持ちが和らぎました。退職勧奨を受けてからしばらくは、辞めてほしいなら幾ばくかのお金を積んだら、と思っていました。しかしAさんの意見を聞いたり、組合のガイドを読んだりして、退職勧奨自体がおかしいんだと思うようになりました。

3回の団体交渉を経て、退職勧奨は撤回となりました。途中、大浜さんの意図がわからずイライラしたり、雇用者責任を問うだけしかできない自分の仕事への姿勢に情けなく思ったりもしました。今回の事が自分にとってプラスの方向に変えられるきっかけにしたいです。櫻原さんをはじめ、組合の方に助けてもらった事に感謝しております。組合のお手伝いをしたいと思っています。

労働者弁護団 学習講座の案内

憲法改正って何だ？

講師： 弁護士

日時： 5月11日(木)午後6時半から

場所： 弁護団事務所(06-6364-8620)

受講料：1000円 要申し込み

解決しました！ Y・N

私は、神戸の船舶管理会社に3年弱勤めていました。しかし、今年の2月17日に突然解雇を通告されました。問題は、人間関係のトラブルです。私は、その会社で経理を担当していましたが、昨年9月から新システムへの移行に伴いN子さんが経理を担当し、私は、船舶の精算業務を担当することになりました。N子さんはあまり経理に詳しい人ではないのですが、私をライバル視し、私からの引継ぎを全面的に拒否されたのです。

現状の改善を上司に何度も、何度も相談したのですが、一向に改善の余地はありませんでした。最終的には、社長が事態を収拾しました。しかし、社長は、N子さんを大変気に入っていて、N子さんがあることないことを社長に言いつけていたというのが現状です。とても職場環境が悪い中、生活のため我慢をしていましたが精神的苦痛は言い表しようもないものでした。

このような経緯から、突然の解雇通知です。私は、納得がいらず管理職ユニオン関西に相談しました。会社から出てきた解雇理由は、95%がこじつけと、でたらめでした。団体交渉を行ったことによって今回の解雇が不当であることがはっきりとし、自分の存在価値を再確認できたことが何よりも喜びでした。1回だけの団体交渉ですみ、後は、会社側の弁護士と管理職ユニオン関西とで和解に向けての話し合いが成立し、先日、私の納得のいく内容で和解できました。

今回の団体交渉で私が学んだことは、

退社時に私のパソコンファイルは2名の女子社員に譲渡済みだったので、感情的になり削除しました。また、解雇予告手当の未払時の措置として得意先の名簿を持ち帰りました。この2件が団体交渉時にマイナスとなりました。感情的になったとしても、相手にアドバンテージを取られるような軽はずみな行動はしてはいけないことを学びました。

自分が正しいと思うことは、行動に移すこと。

今回の交渉にあたり、大浜さん、Fさんに大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

争議が終わりました。 T

「裁判で和解になりました。」と組合の京都事務所に戻り、本田委員長に報告しました。「解決報告書いて」と言われました。「そうですね。解決しましたね。でも、勝利和解でもないように思います。

私、書くとしても、3月号の「争議が終わりました」と同じタイトルでいいわ」と言いました。「勝利でも思わなければ、今までやってきたことはつまらなくなるでしょう」と本田委員長の言葉に納得せざるを得ないような気もしますが、でも、「勝利ではない」と思います。

「争いことに勝ち負けはない」という言い方は正しいです。「貴方は、今の状態は決して良い状態ではないはずですよ。これから、楽しくない仕事を何年も続けるのですか。」と、法律事務所のK先生に何回も言われて折れました。法律事務所で和解金額を相談しましたが、どうせ会社は出さないだろう、と思う金額でした。しかし、出してくれました。出してくれるなら、もっと欲しいな、こう簡単に終わりたいという恨みの気持ちも少し出ましたが、同意した以上はもう仕方ありません。恨みはやはり醜いし、前向きにならないといけません。

5年くらい前に会社に入ったのは、面接時に直属の上司が良い人と判断したからです。このような国際的な人とはうまくやっていけると思いました。しかし、1年後にその上司が辞めました。予想外でした。その後は、楽しくありませんでしたが、自分には問題意識がありませんでした。会社はなんらかの形で私に語りかけたかもしれないが、私に理解できるようには説明していませんでした。納得まではいきませんでした。降格減給が行われるまでは、深刻にも思いませんでした。コミュニケーションが問題の1つでした。後になって、大阪労働弁護団の基礎講座などの勉強や、組合事務所の判例の勉強で、会社のやり方にも問題があることも分かりましたが、「郷に入れば郷に従え」という大浜さんの言い方にも納得できませんが、全体的に考えて、この会社と自分が合うかどうかというと、結論は残念で仕方ありません。

会社に居残って、労働条件を改善していくのは組合員の役割ですが、自分はそれほどの強さがありませんでした。と言っても、周りにずっと暗くて辛い顔のように見える労働者が居るのも確かです。そうはなりたくないと思います。私は明るくこの会社に居る能力がありませんので、撤退します。

そう言えば、私は組合で浮いていました。性格の問題か、ストレスの問題か、他の組合員の応援はあまりしていなかったもので、自分への応援も少ない方でした。でも、仲村さんが紹介して契約した弁護士が辞

任するまで、気が強い自分が居ました。自分が信頼できる新しい弁護士が見つけれられるまで、運が強い自分が居ました。解決するまで両親に黙っていた「親孝行」の自分も居ました。

和解した2日後に両親にも報告しました。「辞める前に相談して欲しかった。次の仕事を見つけてから辞めるべきだと思います。」と慎重な母。「他の人が耐えられるなら、貴方も耐えられるはずですよ。」「仕事探しよりは、結婚相手探しの方が大事だよ。」と余裕の父。

反省点としては、早く争点を見つけられなかったことです。社則で、年俸制から月給制へと移行する時に、年収の10%カットが可能で、年俸制から月給制へ移行する時にどうするのかは規定がありませんでした。雇用契約にも書かれていなかったのも、私の合意が無しでは出来ないという事になります。「合意があったかどうか」が争点になります。しかし、裁判になるまでには、分かりませんでした。団体交渉で、ずっと10%の根拠などで大いに話をしました。早い時期に、多くの弁護士に相談したら、早く解決していた可能性もあります。これからは、自分の強さを持って、早く新しい仕事を見つきたいです。



組合活動は“**やってもらう**”“**やってあげる**”の依存関係ではありません。会社依存から単に組合依存に変わっただけでは解決にはなりません。あなたの“**どうしたいのか**”について、あなたが“**どうするか**”を決め、あなたが“**主体**”とならなければ何も始まりません。私達は、組合員が会社への依存から脱し、自立して生きていくために、本人の主体性に基づいて、組合員が相互協力し問題解決をサポートしています。

あなたの取り組み次第によって、その解決も違ったものになります。より納得できる解決を導くために組合活動や学習会に参加し、様々な問題で闘争している組合員と交流して、自身の問題への取り組み方を考えてみましょう。「**組合員の ことです**」とお電話下さい。参考になる交渉などをお知らせします。

新入組合員学習会

4月22日(土) 14時~16時 管理職ユニオン事務所

管理職ユニオン・関西とは、どのような労働組合なのか？ 組合の活用法、リストラ対応策、団体交渉の進め方、事務所での対応などについて学習します。

悩んでここに駆け込んだのはあなただけではない事を知り、実体験を語り合うことによってストレスを発散し、会社社会とは全く違う集まりを実感します。そして、それぞれが抱える問題を考え、どのように解決していくのか、アドバイスを受けながら客観的に考える機会でもあります。

新入組合員の方は必ず参加して、より早い解決を目指しましょう。
今まで参加していない組合員の方もぜひ参加してください。

MU 三ユニオン 2006 交流会報告

3月12日執行委員 A

東京、東海、関西の3つの管理職ユニオンが合同して、交流合宿を行いました。昨年秋の実施から約半年、組合員にとって、数少ないコミュニケーションの機会のひとつです。なお、ホームページでご存知のとおり、「東海」は「名古屋」が改称したものです。

名古屋管理職ユニオンは、管理職ユニオン・東海に改称してホームページへのアクセス数が飛躍的に増加しました。管理職ユニオン・関西のIT分析主幹、T氏によりますと、「改称により、五十音の順位が上がったことが大きな理由である」とのことでした。このことも交流会で報告され、東京も改称しようか

東京管理職ユニオンから管理職ユニオン・東京へ と盛り上がりましたが、提案は2分後に撤回されました。

会場は岐阜県恵那市。恵那ラジウム温泉という古い旅館です。大変費用対効果の高い(つまり安い)宿で、館内の看板には「ヘルスセンター」というコンセプトで開館した、長い歴史をもっていることが紹介されていました。東京、大阪の人間にとっては初めて耳にする施設でしたが、地元名古屋ではとても有名で、「ああ、あそこきゃあ、よう知っとるだぎゃあ」と、親しまれているお宿だそうです。

五つの「離れ」に分かれて泊まることになりました。「離れ」というと心地よい響きを感じます。6畳二間だったり、4畳半二間だったり、8畳二間だったり 確かに別々の建物で・・・木造平屋で・・・門があって、玄関があって でも室内には久しぶりにお目にかかる、輻射式の石油ストーブがありました。それぞれのお部屋にファンヒーターもありました。エアコンは冷房専用で、なにやら100円玉を入れる装置のようなものがついていたり・・・でした。

私たちの他にも宿泊客は多く、若いカップルも、年配のカップルも、若いアンちゃんたちの団体もほとんどが「離れ」に泊まっていたようです。

大阪からは2台の車に分乗、私たちは午前10時にJR山科で待ち合わせ、名神高速小牧ジャンクションから中央道を走り、恵那のインターで降りました。お昼ご飯は、道の駅で済ませて会場に向かいました。メニューもちろん全員が「名物のそば」

2時間で着くはずがない距離なのに・・・なぜかO書記長が運転するスティックコントロール4駆のRV は12時前にそば屋に到着してしまいました。

学習と情報交換の会議は午後3時からはじまりました。東京からは8人。分厚い資料の入ったスカイプルーの封筒を手際よく配布してくれました。封筒の表には「MU東京管理職ユニオン」の文字と地図がくっきり描かれていました。

封筒なしの資料を持ち込み、手分けしてバタバタと配布した関西も8人。Sさんが交通事故で入院していて、参加が危ぶまれていた東海からは3人も参加、合計19人で会議を始めました。

一番気になっていた、Sさんの容態も、マクドナルドの残業代100億円請求の実態も、文教堂事件も、実際にナマの声で話し合うと臨場感をもって伝わってきます。

報告を聞いて、Sさんのことについては少し安心、マクドナルドと文教堂については認識のずれを補修することができました。

その他、それぞれの直近の活動状況と内容について報告が行われました。特に問題が大きく、討議されたのは

最近の組合加入者の資質低下。 頼る一方の相談者をどう啓発していくか。

高齢者雇用の問題をどう解決に向かうか。 労働契約法と高齢者雇用の安定 (定年延長の実現性) でした。 については、管理職ユニオンの良い特徴である「当該主義」は相談を受ける組合員の側にもできるので、少々問題はあとで修復が可能だ。歴史のある旧来の他組合では、ベテランと言われるのは20年、30年の経験者だ。それにひきかえ管理職ユニオンの場合、組合そのものの歴史が浅いので、2、3年のキャリアで古参として扱われる。極端な場合、加入して2週間くらいで労働相談を受ける場合もある。経験不足は組合員全員に共通している、恐れずに思い切って前進しよう。と全員が納得しました。 の高齢者雇用の問題について、管理職ユニオン・関西では4月1日14:00から法対部による勉強会を実施する予定も報告されました。

会議にあたって、東京から提供された、厚生労働省作成による「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律の一部を改正する法律の概要」によりますと予断は許されない状況です。分けても、会社側の動向、方

向性の変更を早い機会に入手し、今まで以上に手遅れにならないよう組合に相談することが求められます。40代以上は自分自身や兄弟、友人が当事者、30代以下は親を中心とした親族、親しい先輩の深刻な課題となります。

交流会への参加者のうち9名が、私にとって初対面の人でした。深夜というか早朝まで時間がたっぷりあったおかげで、初めてなのにたくさんの言葉を交わすことができました。これでまた、人の輪が広がります。私は、管理職ユニオン・関西加入以来2年が経過します。つたない経験から私の見るところ、管理職ユニオン・関西は、古い体質の労働組合とは違う思想を持っているように見えます。そこにはユニオンという考え方で結ばれている「きずな」を大切にしている共同体思想があります。それは農業に代表される、地縁で結ばれた地域共同体とは違うようです。また会社という利益共同体とは明らかに違います。個人個人はさまざまな生き様やわがままを持って生きています。管理職ユニオンは、その結びつきの中で、社会正義を重視した活動を通じて答えを表してきました。今回その一端に触れることができたと感じています。これからも学習の機会があったら参加させてください。ありがとうございました。

3/2（木）～4（土）実施した労働相談ホットラインの概要報告

執行委員 O

前日の午後7時からニュースで「労働問題何でもホットライン実施」の案内があったことと、当日にテレビの昼のニュースに於いて、実際に相談を受けている場面が放映されたこともあり、本人以外の家族の方を含め、多数の電話相談がありました。相談自体も、退職勧奨、サービス残業、旅行積立金の不明瞭な使途及び上司や職場のイジメ等従来にも増して多岐に渡る内容でありました。今回のホットラインの結果、泣き寝入りせず、組合に加入して会社と闘う意思表示を示した方が多く、組合の広報活動の重要性を再認識した次第です。

相談件数：48件内訳 3月2日：37件 3日：7件 4日：4件

主な相談事例

- 母親：29歳の息子のこと、勤務年数は8年 退職したいが、辞めさせてくれない。
- 妻：38歳の夫のこと、残業で帰りが遅く、23時から24時になる。残業代は1日2時間。
- 40歳男性：営業職、売り上げの少ないところを廻され、売り上げが悪いと責められている。
- 36歳男性：営業職、昨年7月頃から退職勧奨を受けている。
- 27歳男性：私立学校の教諭、学校から教員には不資格だと言われて、図書館の事務職に。
- 景品交換：15～16年前と比べて3/2～半分程度まで減額された。
- 60歳女性：定年後の再雇用が本人だけない。
- 30代男性：派遣、派遣元の社員から嫌がらせを受けて、契約更新時に雇い止めになった。
- 年齢不詳男性：1年以上のアルバイト、正社員になりたい。
- 年齢不詳女性：1年間休職（過呼吸）し、職場復帰したが、退職勧奨を受けている。

など

あなたの経験、または意見を大募集しています。（組合員・非組合員を問いません）
内容は特に限定しませんが、ユニオンの大会方針『明るく！楽しく！元気を広げよう！』『自立・連帯・協働』に基づくあなたの文章をください！

また、組合員の皆さんの仕事や再出発も応援しています。どんどん紙面を活用してください！

例題：解決しました！ 就職しました！（苦労談） 事業を開始しました！
会社にこうして居座っています・ETC 締め切り：毎月月末
できれば、メールもしくはフロッピーを郵送してください。（Faxも可）
連絡は教育宣伝部・大浜まで

3.18 管理職ユニオン関西主催 初デモ行進 報告

「こらえて」S

機関紙をご覧の皆様、こんにちは。三週連続で登場の「こらえてばかりで委員会」のS・Kです。今回の管理職ユニオン関西デモ。「脱・会社人間」

デモに、寒い雨の中、約70人も参加者で、大成功のうちに無事行うことができました。ご参加頂きました皆さん、大変ご苦労様でした。特に北大阪合同組合さんには、お車を拝借し、又多くの方にご参加いただきまして有難うございました。八尾ユニオンのM代表にもご参加頂き、大変意義のある活気あるデモ行進になりました。2月の107号にも記載しましたが、このデモは、当組合にとって結成10年を迎えるにあたり、今我々は、何をすべきかと言う事で「こらえて」で熟考した、結果、MU・関西は、「労働問題」だけではなく、「社会問題」にも今後は、どんどん取り組んでいかなければならないと、強い意志のもと実行することにいたしました。当初、何せ初めての試みで、少し途惑いもありましたが、大浜、仲村、両専従の、適切なアドバイス、応援を頂き又「こらえて」のメンバーにも助けられながら、その他の組合委員の皆にもささえられて、当初の目的は、十分に達成できたように思います。

当日は、「脱・会社人間」と言うことで、シュプレキコールでは、
「残業代は、きっちり請求しよう！」 「同一労働・同一賃金をめざそう！」
「会社からの嫌がらせ、イジメには、ユニオンに入って闘おう！」
「最低賃金を時給1200円に！」 「団塊世代は、立ち上がろう！」
「会社のいいなりにはなるな。脱・会社人間になろう！」

アメリカ領事館前では、
「アメリカは、岩国市民の声を真撃に聞け！」 「軍事基地を全部撤退せよ！」 「イラク派兵をやめろ！」

大阪市役所前では、
「無駄なお金を使うな！税金を返せ！」 「議員の報酬を、一般の労働者と同じ賃金にしろ！」
「公園をホームレスに開放しろ！」 「金持ちからは税金を、貧乏人には福祉を！」

等と我々の思いを訴えました。今回のデモは、ある意味画期的な事であり、今後の管理職ユニオン・関西にとって、新しい第一歩になったと思います。ただし苦言を言いますと、寒い雨のせい少し、シュプレキコールの声が小さかった事と、支部・分会からの参加者が少なかったです。次回また、デモをする機会があると思います。私の思いは、御堂筋を南から北へ逆行して、街宣車を数台で数百人デモ行進をしたいと思います。関西の全て労働組合、その他の関係各所、各機関、かきねなく労働者の地位向上の為開催できる事を切に願いながら、報告を終わらせて頂きます。有難うございました。それと今回無事にデモが終了できましたのも、当日、警備していただいた各警察所警察官の皆様のおかげです。大変ご苦労様でした。感謝しております。今後とも宜しくお願ひいたします。それでは、皆さん又お会いいたしましょう。管理職ユニオン・関西万歳！！

活用しよう！勉強しよう！求めています、書籍・感想文

ユニオンでは色々な本を貸し出していますのでご利用ください。必ず貸し出しノートに記入して返却するようお願いいたします。また、良い本などがあればご提供いただけると幸いです。

書籍紹介文や感想文も募集しています。積極的にどしどしお寄せください。

(教育宣伝部:ユニオン狸)

あばけんKOBEから 春闘のかけで泣く若者たち

公務員の厚遇問題や、郵政民営化の問題の影で、もっと深刻な苦しみを抱えている人たちが私たちの仲間にあります。非「正規」労働者のこのような“春闘”もあるのです。

①ひとつは、公務職場で働く臨時・非常勤嘱託・パートたちです。

彼女らは、公務員たき役所のなかでは、その公務員からも差別される存在、イジメの対象になっています。半年契約とか1年契約といった雇用年限のなかで、毎年この時期になると、継続して雇ってもらえるかの不安のなかで日々を過ごしています。一般の市民・利用者・お客さんたちから見れば、まったく正職員と同じように“公務員”と思われています。しかし、このような雇用不安にびくびくしながら、言いたいことも言えずにはたらいっているのです。年収は3分の1、4分の1と少ないうえに、一時金や退職金の権利も無く、組合にも入れてもらえず？雇用契約満了の時期が集中する年度末の3月下旬を迎えています。

今、兵庫県内の或る自治体職場で臨時職員の賃金切り下げと契約更新への不安が現実となっています。10年、20年もの長期間契約が更新されてきた人たちが、1年契約という“有期雇用”の名の下にいつか生活基盤を根底から剥奪されようとしています。その上、労働条件も大きく悪くなる提案がなされています。もともと賃金や身分保障も薄い人たちにさらに格差を拡大する理不尽な提案です。まさにいじめとしか言いようがありません。

昨日の行なわれた団交は、涙、涙でした。箸にも棒にもかからない天下り中間小役人を相手に、組合員全員が切々と継続雇用保障を訴えました。管理職らは自らの正職員の天下り？先である外郭団体で、彼らの人件費確保のために、私たちの組合員の首と労働条件の大幅切り下げが行われようとしています。

②また、ゆうメイトとしてはたらく或る組合員は、社会保険に加入させてくれないことが、何よりも許せないと思っています。先日には当局から『健康保険被保険者適用除外申請書』を書いて出すように強要されました。フルタイムで雇用されている正職員(本務者)は、社会保険に強制的に加入します。しかし、その4分の3しか働けない(労働時間をふやせば、使用者には社会保険に加入させる義務が発生するから短時間におさえられている)ゆうメイトたちの大半は、厚生年金や健康保険に加入する権利が阻害されています。この30歳代の男性は、実際は時間外労働を頼まれて行っており、既に加算の最低要件をこえています。もし、しつこく加入手続きをするように要求すれば、おそらく2ヶ月後には雇用契約期限を口実に解雇＝雇い止めを宣告されるでしょう。首を賭けないと当然の権利も主張し実現できないのです。

③業務請負？派遣？で働く20歳代。イジメ→退職強要→本人「死のうと考えた」。団交中。

クリスタル系の合併新会社・コラボレートの契約社員のイジメ問題。！職安の紹介した請負営業所に行ったが別の派遣先に行かされた。＝職安法違反。已む無く？そこで働き始めたが間もなく自損事故で休み、労災手続きを申請。この頃からイジメ＝仕事を与えない、寮を出て行けが続き、精神的に追い詰められる。藁をも掴む思いで派遣業界の相談センター(大阪)に電話して、わが組合の神戸事務所を紹介された。現在、1. 100%の休業補償 2. 精神的な虐め・“退職強要”に対する損害賠償と謝罪を要求中。

他にも次のような問題でたたかっています。

④新卒の新入社員に裁量労働制？→現在退職。時間外未払い賃金要求。

時間外未払い賃金2年半遡って要求。Iという神戸の会社の4人が退職後に加入。新卒社員なのに裁量労働制と主張したが、実態も手続きも違法状態。(国の指針によると、少なくとも3年、5年ほどの職務経験を有することが採用の条件とされている)労基署に相談したが、積極的には動こうとしない。団交の席で、円満に解決したいと会社。タイムカードに基づき全額払わせるよう交渉中。(あばけん神戸事務所／ないとう・すすむ)

第38回 労働運動研究会

みなさん、気軽に参加しましょう！ 待ってますよ！

出来ればテキスト第2章、第3章を読んでおいてください。どなたでも、いつからでも参加OKです。

・日時 4月25日(火) PM7:00~9:00 ・場所 管理職ユニオン・関西 事務所

・チューター ? ・テキスト 的場昭宏「マルクスだったらこう考える」光文社新書

終わったあとは、軽くビールを飲みながら、懇談します。(Y.M)

兵庫県労働委員会での斡旋は不調に終わる

K

ワールド分会は労使紛争時から正当な組合活動として神戸本社前でビラの配布を行ってきました。

しかし会社はその度に人員を配置し通用口2箇所で監視をして、ビラを受け取る従業員に無言の圧力をかけ、そのような状況下で、少数で闘う私達組合員で今、何が起きている、何の問題にどのように取り組んで、どのような解決に向けて進んでいるかという事実を知らせるには限界がありました。

少数組合といえどもワールドユニオンと同様の便宜供与としての組合事務所、社内ウェブ、掲示板等の要求を2005年4月より行ってまいりました。団体交渉では少数組合員という理由で便宜供与は与えないとされましたが、以後も粘り強く交渉を重ねワールド分会として便宜供与として当面掲示板のみの貸与という大幅な譲歩をしました。

しかし、会社側はワールドユニオンと同等に各階の掲示板は認めないので組合としては一箇所でも良しと大幅な譲歩をしました。我々の考える一箇所とは、一階もしくは食堂の一部です。少しでも多くの従業員の方に閲覧していただくためにです。しかし会社提案は17階人事部のフロアでの掲示板なら認めると回答してきました。特別な用事がないとき以外誰も行かない人事部の階へわざわざ掲示物を見に行くことがあるのでしょうか？団体交渉を継続しても人目につかない設置場所しか提案しない会社の態度には解決を望めないで争議状態に入らざるを得ないがその前に労働委員会の斡旋を通じて解決をしたいので申立てを行いました。

2月7日、兵庫県労働委員会でもワールドユニオンとワールド分会を同等に扱い、各階掲示板を要求したが、組合員少数という理由で認めないので、数でなく質を考慮したところを要求し、一箇所なら食堂を要求したがこれも認めないので最大譲歩として各階でなくても奇数階、偶数階、あるいは特定3フロアとか組合提案を行った。会社側はこの日に回答はなく持ち帰り検討するとしました。また、掲示板に付随した便宜供与に関してワールドユニオンと会社との締結書類の提出を要求しました。

2回目の斡旋は3月24日で、会社回答は複数階の掲示板は認めない。1箇所なら食堂のトイレの場所と指定してきました。掲示板の設置場所の話し合いを持った当初から食堂掲示板の場所は双方理解しているにも関わらず、人目につかないところばかり提示してくる会社対応は理解できません。会社とワールドユニオンとの便宜供与の締結書類も一部分のみ委員会へ提出し、見るのは良いけれど、コピーは渡さないとする姿勢、またその他の付随便宜供与締結書類の開示を行わない態度、便宜供与の締結内容を会社とワールドユニオンが足並みをそろえ隠す必要がどこにあるのでしょうか。

会社として「ワールドユニオンが認めないから開示出来ない」、あまりにも閉ざされていないでしょうか。掲示板以外の場所にワールドユニオンが掲示している箇所を指摘すると「認知していない。確認する」と回答したものの、知らないはずがありません。どのような協定が組まれているか不信感が増すばかりです。この2回の斡旋で前向きな回答がでないで、兵庫県労働委員会での斡旋は打ち切り、審理の場での解決しかなくなりました。私達は大阪府労働委員会への救済申し立てを決めました。補足ですが、斡旋不調に終わった後に掲示板以外の所にワールドユニオンが貼っていた掲示物がいつの間にか、こっそりと消えていました。会社と社内労組は好きに貼ったり、剥がしたり出来る秘密裏の流動的な便宜供与締結を結んでいるのでしょうか。

情報システム委員会からのお知らせ

2006年度 パソコン学習会

パソコンは操作すれば操作するほど、少しずつ上達します。まずは慣れることから始めましょう。初心者の方、大集合です。キーボードが打てなくても大丈夫。お気軽にご参加ください。組合事務所で楽しく勉強しましょう。又、当日お手伝い頂ける方も募集しています。可能な範囲でお互いを助け合ひましょう。

パソコン学習会 4月度 ★事務所まで電話で予約をお願いします。お気軽にご参加ください。

2006年4月23日(日) 13時~17時 (次回は4月23日)

場所:管理職ユニオン・関西事務所 インターネット・ホームページ初期作成編 楽しく活用しよう。

情報システム委員会 スケジュール

5月度は5月10日(水)午後7時からです。6月度は6月07日(水)午後7時からです。

3月5日(日) 沖縄の宜野湾海浜公園で行なわれた県民集会に参加しました。

35000名、『在日米軍基地、沖縄・普天間基地移設は海外・県外に』の声！

普天間基地の移転先として、沖縄県名護市辺野古沖の海上在日米軍新基地建設が地元民や支援の力で、昨年秋、政府に断念させました。その後、政府は日米協議の中で地元を無視し、いわゆる「沿岸案」を合意しました。日本の在日米軍基地の75%が集中する沖縄、基地撤去・縮小をめぐる戦いは3月5日の県民大会から動きが出てきています。私は、友人からの誘いで久しぶりの沖縄行きとなりました。土曜の午後の飛行機で出発、日曜の集会に参加し、月曜の朝の便で帰阪というせわしないものでしたが、沖縄の闘いに元気をもらいました。集会の正式名称は「日米両政府が合意した米軍普天間飛行場の新たな移設先キャンプ・シュワブ沿岸部への移設に反対する『普天間基地の頭越し・沿岸案に反対する県民総決起大会』」でした。3万5千人が集まり、沖縄社会大衆党、民主党、社民党、共産党が参加(自民党、公明党は、中央からの圧力で不参加と聞いた。)し、労働組合を始め様々な階層や、家族ずれの方も集まった。組合員の水野氏も私の呼びかけに応え、久しぶりに元気な顔を集会場に見せてくれました。この間の政府関連のアメとムチの懐柔の動きは、『普天間飛行場移設先の名護市の島袋吉和名護市長は、「市が求めていた沖合いへの大幅な修正と政府が決めた辺野古崎案との間の場所で妥協する可能性を示唆」(3月23日、夕刊)』、『「新空路提示」(3月26日、朝刊)』などがマスコミを通して伝わってくる。自然を守り、ジュゴンの海を守る、反基地の大きな抵抗の闘いが再び始まろうとしています。私も、その名護の現場にまた行くことでしょ。注目下さい。(仲村実)

大阪市内へ電車で40分のベッド 兵庫県川西市に6歳で移り住んで、早30年。

そこらへんの野山(里山)をうろついて育ちました。社会人となった今、毎日電車でゆられて大阪へ通勤していますが、休日となると息子といっしょに里山をやっぱり、うろろう。それだけでリフレッシュされるのを感じます。そんな「うろろう」からのレポートです。

「里山」という言葉を最近よく見聞きしませんか?「おじいさんは山へ柴刈りに...」と昔話のくだりにもあるように、人間に薪や炭などの燃料や田畑に入れる堆肥としての落ち葉などを与えてきた身近な山林です。このように人間が利用することで、陽光や空気がたっぷり入る山林になり、それに恩恵を受けて、いろいろな虫や動植物が栄えてきました。しかし、縄文時代の後期から始まりつい50年ほど前まで続いてきたこの里山と人との共存共栄関係ですが、今や、薪や炭の利用は激変し、放置され荒れた里山がほとんどです。そんな中、兵庫県立大学教授によると わが川西市も含めた北摂山地一帯は、本来の里山の姿が見られる日本で唯一の場所だそうです。その理由は、茶道用炭の最高級ブランド「池田炭(菊炭)」を室町時代から生産してきたことにあります。

茶の湯炭には、火付き火持ちがよく、はぜないなど機能面だけでなく、「切り口がまん丸で菊の花形の割れ目があること」、「樹皮が薄く、ぴったり密着していること」、「節がなく、真っ直ぐなこと」、「灰が真っ白であること」などの美的要素と、「馥郁(ふくいく)たる」炭の香りや湯が沸く時の音にまで風情をもとめられます。これら諸条件を満たす「池田炭(菊炭)」が生産されてきた背景には、二つの大きなものがあります。気候(降雨量が少な目、年平均気温12~15)や土壌に恵まれ、ヤナギ肌といわれる樹皮が薄く肌目が細かい上質のクヌギ材が得られること。それからもう一つが、ここ一帯が「多田銅銀山」という奈良東大寺の大仏建立に銅を供出したこともあるほど、昔から日本有数の鉱山地帯であり(今もこの銅銀山に隠されていると伝えられている「豊臣家の埋蔵金」のロマンを追い発掘作業をしている方がいます。)これら銀や銅の精錬用に炭がさかんに生産され、炭焼きの高い技術力が築かれてあったことです。

この「池田炭(菊炭)」は、大阪府池田市が集散地であったことでこの名がつけました。池田市の久安寺では平安時代の末期から江戸時代まで宮中に献上されていたことや「池田炭」がトップレベルであることが多数の古文書に記されています。豊臣秀吉も絶賛したとも伝えられています。

茶の湯の発展とともに脈々と焼かれてきた「池田炭(菊炭)」ですが、ここでも農林業の衰退による影響は免れていません。生産者の高齢化や継承者不足、良質の原木不足です。最盛期には川西市に40軒もあった炭焼き農家は、今では2軒のみとなっています。この危機的状況に行政やボランティア団体も立ち

上がっています。実は、私もその一端を担いたいと去年クヌギの植樹に参加しました。そのクヌギが原木となり炭焼き窯に入るまで約20年。気の長い話のようですが、人と自然の営みとは「そんなもの」なのでしょうね。
(N)

ふりいたあことはじめ(前) 1970年代青春漂流記 O53歳

組合員、賛助会員の皆様、こんにちは。昨年7月のMUニュースで報告しましたとおり、28年振りにフリーター生活をしているOです。勤務先は自宅近くのスーパー銭湯。年末の大望年会で「職場にもすっかり慣れ、あまりにも平穏な、刺激のない日々なので、2006年はMUニュースに何か書いてみたい」と語った手前、今月から時々拙文を寄せることにしました。まずは、恥をしのいで1970年代の中頃、フリーターの始祖鳥みたいな暮らしをしていた頃のことから。

ぼくがフリーターになったわけ

20代前半の数年間、ぼくは実家に寄生(帰省の変換ミスではない 念のため)して、今でいうところのフリーターのハシリみたいな暮らしをしていた。1浪して、大阪郊外のマンモス私大になんとか合格したのが1972年の春。1年生の頃はまあまあまじめに通学していた。コンパや新入生合宿、学生街の喫茶店でのとりとめもないおしゃべり。優秀な学生ではなかったけれど、落とした単位も2つか3つで、まずまず平均的な学生だったと思う。

つまりいたのは2年生になった頃から。それまでは、講義の合間にパチンコ屋やボーリング場へ行っていたのが、パチンコやボーリングの合間に好きな講義だけ受けに行くようになった。当然ながら、3年生に進級する頃には深刻な単位不足。そこへオイルショックの狂乱物価で世情は騒然。学費値上げ反対闘争で長期にわたる学園封鎖となり、遊びグセにますます拍車がかかってしまった。講義が再開されても、いったんついた遊びグセは元に戻らず、大学は中退。かといって、定職に就くわけでもなく、バイトからバイトへ渡り歩く、フリーター生活に突入してしまったのである。

ぼくのアルバイト歴

ここで思い出せる範囲でぼくのアルバイト歴を辿ってみる。初めてのアルバイトは中学を卒業した68年の春。アルバム工場で製本や包装の作業をした。日給600円(時給じゃないよ、念のため) 大学に入った72年はデパートで商品伝票の整理。日給1430円。72年の暮れから翌年にかけては、特急の食堂車で皿洗いや車内販売の仕事をした。まだ新幹線が岡山までしか延びてなかった頃で、大阪駅を起点に『しおじ』で下関へ行ったり、『北越』で新潟へ行ったりした。『雷鳥』で金沢まで行き、名前だけ『はくたか』に変えて上越線経由上野着なんてコースもあった。日本の食堂車文化の黄金時代だった。

本格的なフリーター生活に入ってから、プラスチックの表札売り。完全歩合制で1個売って250円。カスターネットの子分みたいなのを手にカチカチやって通行量調査。テレビ番組の視聴率の調査票回収なんでもあった。テレビといえば、ボーリング番組のスコアラーとして指先だけテレビ出演したこともある。今では、自動的にスコアが記録されるボーリング場がほとんどなのだろうが、当時はスコアシートに鉛筆書き、それにライトを当ててボードに拡大させ、テレビ画面と合成させるという手法だったので、まさに指先だけのテレビ出演。拘束3~4時間、弁当付きで2000円。

一番稼ぎがよかったのはやはり力仕事。琵琶湖に近い宅地造成の現場で働いた。プレハブの宿舎に泊まり込んで、スコップを手にしての肉体労働。夏の盛り、真っ黒になりながら、1ヶ月ぐらいやった。日給4000円。

泊まり込みといえば、中学校の夜間警備員をしていたこともある。学校というのは、昼間は賑やかだけれど、クラブ活動の生徒達も下校し、最後まで残っていた先生を見送って校門を施錠した瞬間、さっきまでの賑わいがウソのような静寂が訪れる。夜の帳がおりた頃、校内を巡回する。鉄筋校舎にピタッピタッと自分のスリッパの音だけが響く。薄気味悪いが、理科室だけは化学薬品があるので念入りに施錠を確認しなければならない。標本の骸骨となるべく目を合わさないようにしながら...。幸いなことに、灯りの消えた音楽室からショパンの調べが流れてきたり、トイレのドアが勝手に開いたりというような怪談じみた体験はせずすんだ。(1度だけ宿直室で寝入りばなに金縛りにあったけれど) この仕事は、昼間はパチンコや映画に行き放題。他のバイトとの掛け持ちも可能で、けっこう長く、1年近くやっていた。

書を捨てよ、町へでよう

そんなふうにあアルバイトに明け暮れる日々だったけれど、ふだんの楽しみは何だったかといえば、まずはパチンコ。バイトのある日はその帰りに2～3時間、バイトのない日は、10時5分前に行きつけのパチンコ屋の前に行き、すっかり顔なじみになったおじさんやおばさんたちと挨拶を交わし、開店と同時に店内へ。まだ手動式の台が幅をきかせていた時代で、ペースに緩急をつけながら、5～6時間は平気で打ち続けた。「5万負けた、8万勝った」などという昨今のデジタル化されたパチンコ事情から比べれば、1桁少ない金額の勝ち負けながら、月に20日ぐらいいはパチンコ屋の喧騒と紫煙の中に身を置いていた。

パチンコに次ぐ楽しみはボーリング。70年代初頭の空前のブームがやや下火になり、ブームを当て込んで雨後のタケノコのようにあちこちにニョキニョキと出現したボーリング場が、ゲーム代を随分安くしてくれたおかげで、多い時は週3～4回、その度に8ゲームから10ゲームくらい投げた。続けて10ゲームも投げれば、レーンの油が手にべったりと着くし、親指の関節はチクチク痛んでくるし...ほんとこの頃、パチンコといい、ボーリングといい、ぼくの右手親指はよくぞ酷使に耐えたものだと思う。

それから、映画もよく見た。とくに熱心な映画ファンというわけでもなかったが、映画館で映画を見るという習慣がつくと、次の話題作も見たくなるもので、洋画の北野劇場、邦画の梅田劇場、ちょっとマニアックなあべの名画座など、ジャンルを問わず、年に40～50本ぐらいいの映画を見た。

スポーツは、Jリーグはまだその萌芽もなく、やはり野球観戦。甲子園はもちろんのこと、パリーグの試合もよく見た。競輪の仮設バンクが脇に置かれている西宮球場(競輪開催日にはそちらが主役になる)急勾配の内野スタンドの大阪球場、時として試合そのものより1塁側と3塁側の応援席のヤジ合戦の方がおもしろい日生球場、内野スタンドの上段に陣取ると古市古墳群の緑が眩しい藤井寺球場...ここまで書いてきて、甲子園以外の球場がすべて、すでに過去の球史の存在になっていることに気付き、唖然、愕然、ちょっぴりグッスン。

そんなふうにあ、バイトの合間に、パチンコ、ボーリング、映画、野球観戦などを楽しみながら、時々ラジオの深夜番組に投稿などして賞品をもらったりしていた。自由な時間はたっぷりあるのに、本はあまり読まなかった。年に5冊か、せいぜい10冊。『書を捨てよう、町へ出よう』の精神を自分なりに解釈して、実践していた。

旅の終わりにみた夢は...

さて、パチンコやボーリングと異なる、日常から離れた楽しみは旅であった。高校時代に山陽、山陰への、18泊19日というゆったりした一人旅を経験したばかりは、その後も北海道、つぎの年は九州へというように、年に1度20日前後の一人旅を繰り返した。バイトでまとまった金が入ると、ユースホテルなどの安価な施設を利用して、長い一人旅にでかけた。名所・旧跡を訪ねる旅ではなく、ただ、遠くへ行きたい、知らない町を歩いてみたいという願望のもと旅にでかけ、多くの人と出会い、そして別れ、70年代の日本の風景を胸の裏にやきつけた。定職を探そうとしない最大の理由 2泊3日程度の小旅行ならともかく、20日前後の旅となると、定職に就いてしまえば不可能であった。

75年の2月から3月にかけては、雪深い東北の地へ出かけた。みちのく一人旅だった。2メートルを超える積雪、零下12度の酷寒。時おり舞う猛吹雪。雪国の暮らしの厳しさにはほんの少し触れることができた旅だった。

大阪を出て15日目、田沢湖畔のユースホテルに泊まった。風雪が途切れて、夜空には凍えるような満天の星が散りばめられていた。かまぐらななかでの若き旅人同士の交歓会。楽しいひとときだったが、なんともいえない憂鬱にぼくは包まれていた。同い年の友人の結婚式のために明日は帰路につかねばならなかった。「明日の今頃はぼくは汽車の中さ」とつぶやきながら、旅の終わりの寂寥に耐えていた。大阪を出る前にラジオのクイズ番組で思わぬ賞金を得て、まだ1週間や10日ぐらいいは旅を続ける資金的余裕があることが、かえって恨めしかった。

その夜、ぼくは夢を見た。ぼくは貿易船の水夫で、海賊船に襲われて略奪されるさなか、船長の機転で一人だけイカダで脱出し、わずかな水と食糧をたよりに大海を漂流しているのだった。いくつかの島影が水平線に現れても、自力で航行できない悲しさ、なかなか辿りつかないで、悶々としているうちに目がさめた。目がさめると、すっかり見慣れた白銀の世界。「漂流か...俺の青春みたいだな」と思いながら、使い慣れたリュックから歯磨きセットを取り出し洗面所へ向かった。少し開き直って「行き先は潮の流れと風に訊け」とつぶやきながら。

次号につづく

誰も書かないメンタルヘルスの話

N

3月の労働なんでも相談で、受話器の向こうから若い女性の声「あの...、彼が言うんです」「はあ?」「僕に君はもったいない」「はい?」「君みたいな素晴らしい女性は、もっといいヒト(男)がふさわしい...だから別れよう...って言うんです...」「あの...ここは、労働相談なんです...」「わかっています。でもほんのちょっとでいいから聞いてください...。でないといは死にます...」ちょっとのはずが1時間。男のずるさを嫌と言うほど聞いて...

他の電話が鳴って、別の女性「今日、会社で部長に呼ばれたのです」「はい?」「君の様に能力のある人に、うちの会社はもったいない」「それで?」「君のように実力のある人は、もっといい会社を探してみてもいいか?と言うのです」「それは、退職勧奨というのですよ」私は退職勧奨の対応の仕方をユニオンのガイドブックにそって丁寧に話しました。受話器を置いた後、『会社のずるさと男のずるさ。あれ、どこかで聞いたセリフだな...』と思いました。

今回は、「電話相談」それも、メンタルな人の電話相談について書いて見たいと思います。

[電話相談の特色]

メンタルな人の電話相談の特色は、メリットとして 即応性、即時性がある。匿名性があり、恥しい問題でも電話だと話しやすい。電話料金だけなので経済的である。相談者が優位な立場にある。

デメリットとして、電話依存(電話マニア)の人や性的作話に巻き込まれる。相談員の心のケアが必要である。相談にあずかる人が適正のない人だったら相談者は悲劇である。要するに、長所もあれば短所もあります。

[電話相談員にも適性があります]

常に落ちついており、気分がむらがない。自信過剰でなく、自分をよく見せようとしめない。内省的であり、じっくり洞察し、話にまとまりがある。真面目で、粘り強く、耐える力を持っている。おせっかいでなく、話があちこちに飛ぶことなく落ち着いていて、精神的に成熟しておりかつ信頼感がある。

しかし、～を満たす人は、果たしているのでしょうか?人間は神様ではありませんから...。出来るだけ上記の項目を頭に入れながら相談にのりましょう。

[相談者は、最初に相談員をテストしています]

電話は相手の表情や態度が見えません。相談者は、声のトーンや声の感じて相談員を必死で想像します。例えば、『優しいですか?』『怖そうか?』から始まり『信頼できそうか?』『きちんと話を聞いてくれそうか?』『理解できそうにないか?』『頭が良さそうか?』『はずれではないか?』と相談者は、最初に相談員をテストしています。

[名医探しと似ています]

医学でいえば、ドクターショッピングに当たります。患者は、医師を名医かどうか見ていないように見えています。『名医ランキング本』とかにあるベストドクターとか手術の上手な先生というのは、必ずしも医学知識の豊富な人とは限りません。それよりは小手先の器用さとか、長時間の手術に耐えられる忍耐力、決断力があるか、インフォームドコンセント(十分な説明と同意)を満たしているか、さらには患者の気をそらさない話上手とかを重要視しています。

[堂々巡りをし始める相談者こそ最高のトレーニング]

メンタルな相談者は堂々巡りの対話をしてきます。そんな時こそ絶好のチャンスです。医学的な分析、つまり「うつ的な会話なのか?」「統合失調(旧名精神分裂症)」「どこことなく人格障害的な雰囲気があるのか?」「不安障害なのか?」。また、心理学的分析これを「診立て」と呼ぶそうですが、あるいは教育学的分析のトレーニングになります。

話し方での医学的な特徴は図1(「看護のための精神医学」より抜粋)の如くです。統合失調の人はいきなり核心から入ります。うつ病の人は独特の回りくどさがあります。

[相談を終わらせるのはどちらか?]

相談者が「話をそろそろ終わりにしよう」とサインを送っているのに相談員のほうが気付いていない場合は『注意』しましょう。相談者が自分の意思で電話を終わらせることは、その後のトラブルを防ぐ意味でも重要です。

[相談員の素質]

相談員の素質としては、今までに、ある程度の「挫折」「苦痛」「喪失」の体験を積んでいること。しかし、自分の体験の比重が大きすぎると相手の苦痛や困難が「とるにたらないもの」「軽いもの」に感じとって

軽視してしまいます。相談員が自分自身を嫌いで無いこと。人をくつろがせる能力を持っていること。
「自分の力で」相手をねじ伏せないこと。感情の起伏が激しい人は向いていません。常識人であること。必要最低限の「知識」「話術」「年齢」「経験」が必要である。どの様な問題に自分は、過剰に反応しやすいか？自分にとって乗り越えなければならない問題はどこにあるのか？理解した人です。

[恵那市で3管理職ユニオンの交流合宿をしてきました]

3月11日・12日と、東京管理職ユニオン、管理職ユニオン・東海、管理職ユニオン・関西の交流を兼ねて、岐阜県の恵那市で泊りがけの合宿に行きまして。

東京管理職ユニオンの方々も若く活発優秀で、着実に次の時代を担う組合員を育てておられると実感しました。ユニオンの行事として「誰もがみんな相談員」をめざして書記長の設楽さんを講師に招いて相談員研修会をされたそうです。組合員誰もがみんな相談員…。素晴らしいことです。管理職ユニオン・東海の方々も元気に頑張っておられて安心しました。

電話相談は相手から一方的にかかってきます。こちらから選ぶことは出来ません。この人こんな心の奥までは聴いてはいけないと思いつつ、ずるずると深みにはまるのが電話相談の素晴らしいところであり怖いところでもあります。